

歯科保健事業における新たな健康づくりの取組について

～歯っぴーファミリー健診事業(仮)～

<背景>

1 健康寿命の延伸

市民が住み慣れた地域や自ら望む場で暮らし続けられるために健康寿命の延伸は重要な課題であり、生活習慣病の発症予防や重症化予防を図るためにも、セルフケア意識の醸成に基づく生活習慣の改善が求められる。

2 若い世代の健康づくり

現在の若年層・働き盛り世代は、総人口に占める高齢者の割合が最も高くなる時期に高齢期を迎えるため、これらの世代に対する健康寿命延伸のためのセルフケア意識の醸成を含めた健康づくりの取組が重要である。

3 歯と口の健康と全身の健康の関係

特に歯の喪失に伴うタンパク質などの摂取不十分では、筋力の低下、運動能力の低下などを招き、身体的自立が損なわれる要因となりうることから、歯と口の健康は全身の健康づくりの入口として重要である。

<現状と課題>

1 健康づくり全般

(1) 若年層・働き盛り世代は他の世代に比べ生活習慣の乱れが認められるなど、健康づくりの意識が低い傾向がある。

(2) 若年層・働き盛り世代において、保健医療専門職が健康づくりに関してアプローチできる機会が少ない。

1回30分以上週2日程度、1年以上の運動を実践している人の割合

男性	全体	32.8%
	20～30歳代	22.2%
女性	全体	28.2%
	20～30歳代	13.7%

平成23年度川崎市健康意識実態調査

朝食を毎日食べる人の割合

男性	全体	73.7%
	20～30歳代	58.6%
女性	全体	80.1%
	20～30歳代	70.1%

平成23年度川崎市健康意識実態調査

2 歯と口の健康

(1) 40歳において、歯の喪失が認められる者の割合が25%、歯周病治療や歯科専門家による歯科保健指導の必要な者の割合が80%以上と高い傾向にある¹⁾

(2) 20・30歳代の男性における定期的な歯科健診受診者の割合がそれぞれ20%、26%と低い²⁾。

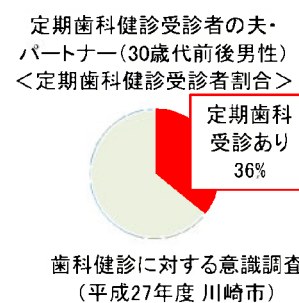
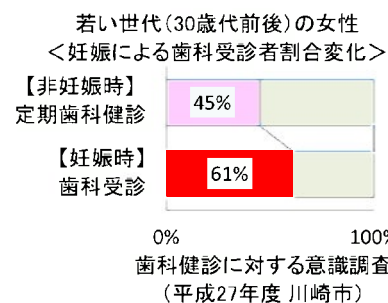
¹⁾ 平成25年度川崎市歯周疾患検診、²⁾ 平成23年度川崎市健康意識実態調査

<課題へのアプローチ>

1 妊娠期には命と家族に対する意識が高まるとともに、歯と口の健康に対する意識が高まり、歯科受診に繋がりがやすい³⁾。

2 女性(妻)の歯科保健への意識の高さは男性パートナー(夫)の歯科保健行動に影響を与える³⁾。

³⁾ 歯科健診に対する実態調査(平成27年度 川崎市)



若年層・働き盛り世代において、命と家族への意識とともに健康に対する意識が高まることで歯科受診に繋がりがやすい妊娠期を捉え、妊婦とパートナーを対象に、歯科健診を通じて健康づくりの動機付けの機会を提供

<若い世代への新たな健康づくりの取組について>

1 目的

健康づくり意識の低い若年層・働き盛り世代に対し、命と家族への意識とともに健康に対する意識が高まる妊娠中に、歯科健診とともに健康づくりの動機付けとして情報提供を行う。

2 対象

妊婦及びそのパートナー

3 事業の位置付け

若年層・働き世代に対する生活習慣改善の動機付けとなる、総合的な健康づくりの取組

4 内容

(1) 歯科健診・歯面清掃及び歯科保健指導(歯科保健に関する情報提供や支援など)

(2) 健康づくりに関する情報提供

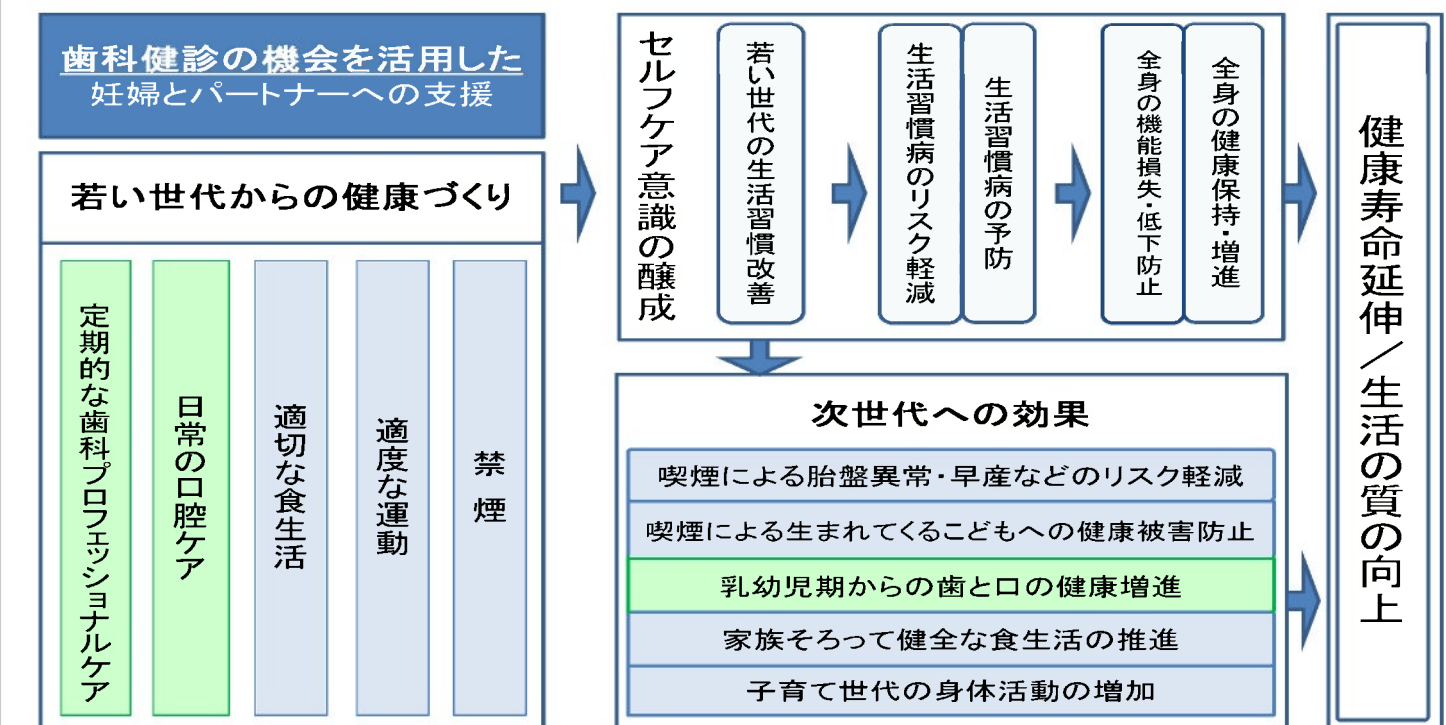
ア 禁煙、食生活、運動などについて、具体的なアクションの呼びかけを行う。

イ 特に喫煙者に対しては、生まれてくるこどもを含めた次世代の健康づくりの点から、禁煙支援のための情報提供を行う。

5 自己負担

セルフケアを基本とした健康づくり施策としての取組であることを踏まえ、事業の対象者と対象とならない者の公平性等を考慮し、自己負担について検討を行う。

<取組による効果>



<本市健康づくり関連の主な計画スケジュール>

